

高等工科学校の紹介

高等工科学校は、神奈川県横浜賀市に所在する「技術的な職能を有し、知徳体を兼ね備えた伸展性ある陸上自衛官としてふさわしい人材を育成する。」という教育理念のもと、将来陸上自衛隊において高性能化・システム化された装備品を駆使・運用するとともに、国際社会においても自信をもって対応できる自衛官となる者を養成し教育する陸上自衛隊の学校です。高等工科学校生徒の身分は特別職国家公務員であり、入学金や授業料はかかりません。生徒は、全員が駐屯地で生活し、宿舍は無料、食事・被服類・寝具については支給されます。



入学式(令和2年4月7日(火))

7月の中学・高校卒業予定者に対する自衛官募集解禁以降、山梨地本では採用に関する様々な案内をさせていただいております。その中には、大学教育機関である防衛大学校及び防衛医科大学校も含まれていますが、自衛隊にはこの他にも、普通科高校と同等の教育が行われ、併せて自衛隊の専門的な技術に関する知識や自衛隊についての教育がなされる全国でも唯一の組織があります。今月号では、その学校である陸上自衛隊高等工科学校を紹介します。

「一般教育」では、3学年になると必修科目に加えて、それぞれの特性、興味、関心に応じて、幅広い知識や教養を身につけ、問題の本質を理解する能力、研究分析する能力、創造的に思考する能力を育成し、文系・理系の枠にとらわれず3年間で一般高校と同等以上の内容を学ぶ「教養専修コース」。



納涼花火大会(令和元年撮影)

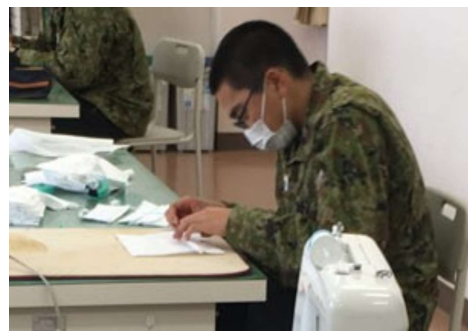
高等工科学校では、普通科高校と同等の教育を行う「一般教育」、将来の技術的スペシャリストとしての素地を身につけるための教育を行う「専門教育」及び一般教育・専門教育と並行して行われる陸上自衛官の心得を学ぶ「防衛基礎学」を主たる教育として実施し、将来陸上自衛官として活躍できる基礎を作ります。

また、提携する通信制高等学校(神奈川県立横浜修徳高等学校)に入学し、3学年修了時に高等学校の卒業資格を取得することもできます。

卒業後の進路は、まず陸曹候補生たる自衛官(士長)に任官し職種学校で実施される生徒陸曹候補生課程を経て3等陸曹に昇任後、各部隊に配属され技術分野における陸曹として勤務します。また、幹部自衛官を養成する防衛大学校学生やパイロットを養成する航空学生(海・空等の受験が可能です)。

「専門教育」は、高等工科学校での教育と卒業後に行われる教育に大別されますが、高等工科学校においては、将来の技術的スペシャリストとしての素地を身につけるための教育を実施しています。「防衛基礎学」は、法令等を学ぶ「防衛教養」と、野外における基礎的な行動を学ぶ「戦闘及び戦技訓練」に大別されます。この他、学年ごとに特色ある競技会を行って体力・気力・チームワークを養い、また職種学校研修等を行って陸上自衛隊に関する理解と知識を深めていきます。

「理数専修コース」、将来の国際人としての必要な語学力、コミュニケーション能力、論理的思考力の基礎を身につけるとともに、諸外国の文化を理解し尊重する態度の育成を目指す「国際専修コース」及びプログラミングやシステムオペレーションの基礎を養成し、発展的な数学に関する知識を学ぶことで、将来のシステム・サイバー業務に携わる生徒を育成する「システム・サイバー専修コース」の4つのコースから1つを選択します。



ボランティア活動(マスク作成)

学生(海・空等の受験が可能です)。

高等工科学校は、規則正しい生活をするため、生活が厳しいという印象があるかもしれませんが、しかしながら、それらを同期と乗り越えることにより素晴らしい未来が開けると思っています。在校生徒の中には「集団生活なので、全員がまとまって行動しなければならず大変」という声もあります。一方で、「困難なことを仲間と乗り越えることができた」「普通の高校では体験できないような経験をすることができた」という声もあります。

今年度の受験は推薦、一般ともに11月1日から受付開始となります。関心をお持ちの方は、募集対象者の皆さんであれば、保護者の方又は学校の進路指導の先生を通じて、保護者の皆様又は学校関係者の皆様は直接地本本部または各募集事務所にお問い合わせください。詳しくご説明させていただきます。



秋季の採用試験始まる

秋の試験シーズンを迎える山梨地本では、8月下旬から9月にかけて自衛官等採用試験を実施しました。なお、それぞれの会場では、新型コロナウイルス感染拡大防止処置を引き続き実施しています。

1 自衛官候補生試験及び一般曹候補生試験

第3回自衛官候補生試験は、8月29日(土)北富士駐屯地において実施されました。受験者は少数でしたが、口述試験では「入隊して社会に対して貢献したい」「自衛隊を生涯の仕事としたい」など志望動機や入隊に対する意気込みが聞かれました。また、第4回自衛官候補生試験(筆記)及び第2回一般曹候補生試験(1次)が、9月18日(金)20日(月)の間、甲府市の甲府合同庁舎及び都留市の山梨県男女共同参画推進センターぴゅあ富士の2会場において実施され、3日間合計で100名を超える受験者が試験に臨みました。今回の試験

2 航空学生試験(1次)

9月22日(火)には、航空学生試験が、甲府合同庁舎で実施されました。試験は、昼食をはさんで丸一日、国語や数学などの学科と操縦適性検査が行われました。長時間にわたる試験でしたが、受験者はそれぞれ集中して取り組んでいました。

今後防衛大学校、防衛医科大学校等の試験が実施予定であり、試験シーズンはピークを迎えます。なお、自衛官候補生、高等工科学校、貸費学生などの種目が、引き続き受付中又はこれからの受付開始となります。細部は、地本本部又は各募集事務所にお問い合わせください。

市街地広報を実施しています

現在、山梨地本及び各事務所は、県内の主要な駅やショッピングモールにおいて広報活動を実施しています。



甲府募集案内所(巨摩地域担当)によるイオンタウン山梨中央(中央市)での広報



甲府募集案内所(甲東地域担当)による石和温泉駅(笛吹市)での広報

街中で見かけたら、是非お声がけください。自衛隊に関するお問い合わせや質問も大歓迎です。



予備自衛官補制度について

自衛隊山梨地本便り

【発行】
自衛隊山梨地方協力本部
募集課広報班
山梨県甲府市丸の内1-1-18
甲府合同庁舎
055-253-1591



自衛官等採用試験には、様々な種目があり採用された種目によって入隊後のキャリアプラン等が異なり、勤務する期間も任期制又は定年までと様々です。その多くは、常備自衛官ですが、非常勤の特別職国家公務員として教育訓練に参加する予備自衛官補という制度があることをご存知でしょうか。

国家の緊急事態に当たっては、大きな防衛力が必要です。しかし、その防衛力を日頃から保持することは効率的ではありません。このため、普段は、最小限の防衛力に対応し、いざという時に急速に集める事ができる予備の防衛力が必要となります。多くの国でも、いざという時に急速に戦力を増強するシステムを取り入れています。

わが国では、これに相当するものとして、予備自衛官、即応予備自衛官及び予備自衛官補の三つの制度が設けられています。

このうち、予備自衛官及び即応予備自衛官は、普段は企業の一員として勤務しつつ、定められた訓練に参加し、いざという時は各招集命令を受けて自衛官として行動します。予備自衛官制度は、陸海空自衛隊に制度導入されていますが、即応予備自衛官制度は陸上自衛隊のみにあります。

これに対し予備自衛官補は、主として自衛官未経験者を採用し、所定の教育訓練を経た後、予備自衛官として任用する制度であり、陸上自衛隊と海上自衛隊に制度として導入されています。予備自衛官補の身分は、非常勤の特別職国家公務員ですが、期間中は教育訓練招集に応じる義務のみを有します。

陸上自衛隊では、駐屯地の警備

や後方支援等の任務を実施する一般公募と医療従事者や語学要員等になる技能公募があり、一般では採用年齢18歳以上34歳未満の方なら応募可能です。また、技能では、陸上自衛隊では語学や医療技術、整備などの分野の資格を保有する方を、海上自衛隊では国家海技士資格を有する方が応募することができます。採用年齢も保有する資格に応じ18歳以上から53〜55歳未満となります。

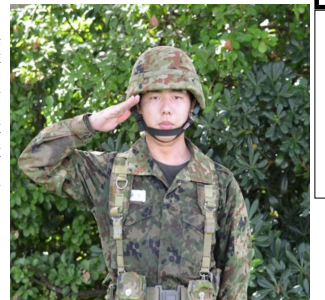


戦闘訓練の様子

予備自衛官補は、教育訓練に応じると月額7900円の手当が支給されます。その他、教育訓練招集中に必要な被服が貸与され、訓練出頭のための往復旅費及び食事が支給されます。また、公務に起因する負傷、疾病、障害又は死亡の場合の災害補償は、自衛官と同様に実施されます。

招集教育訓練は、一般公募が3年以内に50日、合計400時間で履修。技能公募は2年以内に10日間、80時間で履修します。教育訓練のすべてを修了すると、予備自衛官に任用され、階級が指定されます。

県内からも学生や社会人の方が予備自衛官補として採用されています。予備自衛官補の活躍の一端を採用された方の声で紹介します。



山梨学院大学学生

木下紘大（一般）

高校卒業後の進路として大学受験と併せて自衛官採用試験を受験していました。大学に合格したため、自衛官にはなりませんでしたが、自衛隊への興味はあったため、在学していても採用される予備自衛官補になりました。訓練に参加している間は、時間厳守が求められ、初めて扱う小銃の分解、整備を行うなど戸惑うこともありましたが、その一方で、学生でありながら、自衛隊の一連の訓練を経験でき、訓練を通じて仲間ができるなど良い経験になりました。

予備自衛官補は、新しい知識が得られ、年齢、性別を問わず多くの人が集まり交流ができるなどの魅力があります。何かやりがいを感じている人には是非、経験してもらいたいと思います。

今月号では、予備自衛官補について紹介しました。なお従来、予備自衛官補から予備自衛官になられた方が、即応予備自衛官になることはできませんでしたが、制度が変更になり、志願される方は、更に部隊において教育を受けて即応予備自衛官になる道も開かれ、活躍の幅は広がっています。最後になりましたが、自衛隊に関するお問い合わせは、地本本部または各募集事務所までお寄せください。

入間基地見学及びC-1体験搭乗支援

8月25日（火）航空自衛隊入間基地において実施された基地見学及びC-1体験搭乗に県内の空自入隊希望者3名が参加しました。

参加者は、入間基地に到着後、格納庫においてT-4中等練習機を見学し、修武台記念館で空自の概要説明及び館内の見学を実施しました。館内の見学時は、副館長から隊内の生活の様子や訓練内容の説明を受け、参加者の皆さんは、熱心に耳を傾けていました。



搭乗前の説明

今回のC-1の体験搭乗は、入間基地から小牧基地まで飛行し、再び入間基地に帰投する往復約230kmに及ぶ航程で実施されました。参加者は、旅客機とは異なる機内の様子に驚いていましたが、終了後には「貴重な体験ができた」「体験搭乗だけでなく基地見学ができて良かった」といった声が寄せられました。基地見学及び体験搭乗を通じて、航空自衛隊の魅力を開近で感じていただくことができた一日になりました。



UH-1体験搭乗

山梨地本は、8月29日（土）日本航空高等専門学校山梨キャンパス（甲斐市）においてUH-1による体験搭乗を実施し、26名の方が参加しました。



搭乗する参加者の方々

まず初めに、参加者は、ヘリコプターの所属する東部方面ヘリコプター隊（東京都立川市）の隊員から安全教育を受けた後、UH-1の概要や任務の説明を受けました。体験搭乗は2機のヘリを使用し合計8フライト実施しました。間近で行われるヘリの離着陸に搭乗待ちの際は、多くの方はカメラを構えて撮影していました。この日は天候にも恵まれ、体験搭乗中は甲府盆地を一望することができました。

今回の体験搭乗を通じて、参加された方が自衛隊への関心や理解をより一層深めていただければ幸いです。今回都合等が合わずにご案内できなかった皆様には、またの機会にお会いできることを楽しみにしています。

第3回予備自衛官5日間訓練実施

山梨地本は、9月11日（金）から15日（火）までの間、第一特科隊第四中隊（北富士駐屯地）が実施した予備自衛官58名が参加した令和2年度第3回予備自衛官5日間訓練を支援しました。



開始申告

今回の訓練中、最終任期満了を迎える2名が、長年の功績に対して東部方面総監から顕彰を受けました。また、予備自衛官として30年間勤務した1名が防衛大臣から、10年間勤務した1名が東部方面総監から永年勤続表彰を受け、それぞれ伝達されました。さらに、5年間勤務した4名が地本長から永年勤続表彰され、副本部長から表彰状が授与されました。

標高964mの位置にあり、すっかり秋めいた北富士駐屯地において、訓練は実施されました。第四中隊長による予備自衛官の重要性と役割等に

山梨地本は今後、予備自衛官雇用企業及び招集訓練部隊との綿密な連絡・調整を行い、予備自衛官が後顧の憂いなく招集訓練に出頭出来る様に努めてまいります。

